

宇宙航空研究開発機構見学会

大岡百重子 藤沢勝一郎(東本町四丁目出身)

平成二十年四月十九日(土)、茨城県つくば市にある宇宙航空研究開発機構(JAXA)筑波宇宙センターを見学しました。この日は、科学技術週間にちなむ同機構の一般公開日であり、天気があまらしくなかつたにもかかわらず、お父さんお母さんと子供達の長い行列が出来るほどの賑わいでした。我々のグループは五名でちよつと寂しい。

午後からは、石岡市内の関東の清水寺とも言われている「峰寺西行院」を見学しました。

宇宙航空研究開発機構

入口で構内案内図を手渡される。矢印に従って、まずロケット広場。ここには、鹿児島県種子島から日本の各種衛星を打ち上げたH-IIロケットの実機が横になつて展示されていきました。機体が大き

くて長いということは分かるのですが、ロケットは立つていないとまるで迫力がない。でも記念撮影、パチッ。

続いて宇宙ロボット実験室。いくつもの関節を持ったアームが、器用に動く。自動車工場などの単純作業ロボットとは、全く違っていました。

別の棟では、打ち上げに失敗して海中に落ち、回収されたH-IIロケット八号機一段エンジン本体の多数の部品やメイソニック機、液体酸素ターボポンプ、ノズルスカート等が展示されていました。ロケット落下位置を特定し、海洋科学技術センター(現海洋研究開発機構II第二回Jネット勉強会で見学)の協力を得て、深海から回収したものです。回収部品から失敗原因を探り、次の成功に繋げて行つたのです。

マスクミヤ多くの人たちは、失敗を辛

らつに責めることがあります。しかし、科学の実験に失敗や予想外のことが起こるのは当たり前で、それらが積み重なって成果が出てくるものなのです。特に、トップを走る科学技術や他国が不出にしているものについては、失敗を「否」と言うのなら、日本は常に他の国々の後塵を拝すことになり、ひいては国の安全や国益にも影響してしまいます。

次の棟では、去年十一月三日に衛星「かぐや」が、月の北半球を高度100〜197kmからハイビジョンカメラで八分間撮影した画像を、一分間に縮めて放映していました。ごく間近で見ると、クレーターが実に鮮明に写っています。

また、これまで打ち上げた数種類の衛星や来年完成する国際宇宙ステーション(ISS)に取付ける日本の実験棟「きぼう」の実物大モデルを見「きぼう」の中核施設「船内実験室」にも入ってみました。

「船内実験室」は直径四・四m長さ十一・二mの円筒形で、中にはいろいろな科学・生物実験装置が整然と置かれていました。ロケットで運ぶのには大きいものですが、地上で見ると限りスペースとしては狭そうに感じました。

その他、宇宙実験室「きぼう」棟開発現場・運用管制室等を見学。

今回の勉強会場は、構内循環バスが



左端：藤沢さん

走っているほど広くて、もう歩きたくないほど疲れた。

昼食時をだいぶ過ぎていたので職員食堂へ。見学者が多くて混雑していたが、テーブルはどこどころ空いている。早くできるものということであらうにしました。

食堂の外で宇宙食品が販売されていたので、土産にカレーとイチゴを買ってみました。

カレーは、新宇宙食コンペで採用され、外国の宇宙飛行士達にも人気があるだけに、コクがあつて実に美味かった。このメーカーに対するカミさんの評価も大きく変わりました。

イチゴは、水分を除去・滅菌した乾燥

もの。イチゴの香りはするものの、パサパサしていてチョット酸っぱい。ちなみに原材料は、米國産でした。イチゴは、生の方がはるかに美味い。



峰寺西行院

この寺は、筑波宇宙センターから四十㎞ほど離れた石岡市内(旧八郷町)の山の中腹にあり、開山は平安時代初期(八〇七年)と伝えられている。本堂は、茨城県では類例のない懸造りで、県の文化財に指定されています。廻廊からの眺めはすばらしく、眼下の田園風景、遠く霞ヶ浦や太平洋までも見渡せ、関東の清水寺の名に恥じない。この寺は、六mもある檜材寄木造の観音菩薩像があることでも有名であり、また本堂の直くそばには樹齢七〇〇年余のスタジイと樹齡の分らないクスノキの巨木があって、枝を大きく扱げた両木は実に見応えがありました。

この寺へは、車がやっと通れるほどの

細い山道を登って行くのですが、そんな不便な場所にも関わらず、地元や遠くからの参拝者・見学者が結構多いのに驚かされます。

十五年ほど前のつくば勤務時代に、何回かこの寺に来たことがあるのですが、境内西方にある球状花崗岩(俗称小判石)を見に行ったことはありませんでした。今日のメンバーは、勉強好きなのか好奇心旺盛なのか分かりませんが「見に行こう」ということになりました。鉄製の階段を五分ほど下りて行くと、黒色の大きな岩があります。その黒雲母花崗岩の下の部分に石英・黒雲母・白雲母等粗粒の集合体を核とする長径十㎝ほどの小判型模様の石がいくつも入り込んでいる不思議な岩でした。この岩は、昭和十二年に県指定の天然記念物になったとのことでした。天気の良い時は、いくつものパラグライダーがこの寺の周りを気持ち良さそうに飛んでいるのですが、この日の朝は風が強かったため、一人も飛んでいませんでした。

